

日本航空株式会社所属 ボーイング式B747-100型JA8112 に関する航空事故報告書

昭和49年8月2日

航空事故調査委員会議決（空委調第92号）

委員長代理	山口 真 弘
委員	諏 訪 勝 義
委員	上 山 忠 夫
委員	八 田 桂 三

1. 航空事故調査の経過

1.1 航空事故の概要

日本航空株式会社所属ボーイング式B747-100型JA8112は、日本航空61便として昭和49年5月31日、290名の旅客及び22名の乗組員が搭乗し、ホノルル国際空港を出発して東京国際空港に向け飛行中旅客の1名が病死した。

1.2 航空事故調査の経過

6月3日 現場調査

2. 認定した事実及び認定した理由

JA8112は、5月31日09時42分（日本時間。以下同じ。現地時間14時42分）ホノルル国際空港を離陸し、高度35,000フィートで東京に向け正常に飛行中13時43分ころベルトサイン点灯後の旅客のベルト点検を行っていたところ旅客（66才）の容態が異常なことを発見した。

客室乗務員は直ちに同人に酸素マスクをつけ搭乗中の医師に診断を依頼したがすでに脈搏はなく死亡と診断された。なお近くに着席していた旅客の説明によると13時40分ころから腹

018001

部をおさえ苦しそうだったとのことである。

同機は 17 時 24 分 東京国際空港に着陸した。

東京国際空港に着陸後に行われた東京都監察医務院監察医の死体検案書によれば、死亡時刻は 13 時 50 分 ころで、死亡の原因は心筋硬塞であった。

結 論

原 因

本事故は航空機に搭乗中の旅客が心筋硬塞により死亡したことによるものと認められる。

018002